(19)日本国特許庁(JP)　(12)特　許　公　報(B2)　(11)特許番号
特許第6067357号
(P6067357)
(45)発行日　平成29年1月25日(2017.1.25)　(24)登録日　平成29年1月6日(2017.1.6)

(51)Int.Cl.			F I		
A47F	5/10	(2006.01)	A47F	5/10	A
A47F	5/00	(2006.01)	A47F	5/00	E

請求項の数 10　(全 11 頁)

(21)出願番号　特願2012-269237(P2012-269237)
(22)出願日　平成24年12月10日(2012.12.10)
(65)公開番号　特開2014-113298(P2014-113298A)
(43)公開日　平成26年6月26日(2014.6.26)
審査請求日　平成27年11月19日(2015.11.19)

(73)特許権者　394016874
河淳株式会社
東京都中央区日本橋浜町３丁目１５番１号
(74)代理人　100098682
弁理士　赤塚　賢次
(74)代理人　100071663
弁理士　福田　保夫
(74)代理人　100131255
弁理士　阪田　泰之
(72)発明者　落合厚三
東京都中央区日本橋浜町３丁目１５番１号
河淳株式会社内
(72)発明者　竹内康廣
東京都中央区日本橋浜町３丁目１５番１号
河淳株式会社内

最終頁に続く

(54)【発明の名称】商品展示用パネル及び商品展示台

(57)【特許請求の範囲】

【請求項１】

前面小パネルが嵌る支持部を有する後方枠体と、

該後方枠体の該支持部と上端部が回動自在に嵌合して、該嵌合部を支点として下端側が下開きする横長の前面小パネルと、を有するものであって、

該前面小パネルは、上面部と上面部と連続する後方側へ下り傾斜の傾斜部を有し、縦方向に複数個、隣接する同士が所定寸法離間して設置され、

該前面小パネルが後方枠体に嵌められた状態において、該前面小パネルの上部後方位置に、パネル面の直交方向に延びる水平溝と該水平溝と挿入口を同じとする該水平溝と所定の角度で傾斜する傾斜溝を形成し、該前面小パネルの上面部は後方枠体の水平溝の下方壁と面一となり、傾斜部は傾斜溝を構成する２つの上下壁の中の下方壁となることを特徴とする商品展示用パネル。

【請求項２】

該後方枠体は、前面小パネルが嵌る位置にパネル面の直交方向に貫通する窓部を形成したものであることを特徴とする請求項１記載の商品展示用パネル。

【請求項３】

該傾斜溝は、該水平溝に対して６０度後方下り傾斜したものであることを特徴とする請求項１又は２記載の商品展示用パネル。

【請求項４】

請求項１～３のいずれか１項に記載の商品展示用パネルを備える商品展示台。

【請求項５】
更に、該水平溝又は傾斜溝に係合する棚板部材を備えることを特徴とする請求項４記載の商品展示台。
【請求項６】
該棚板部材は、平板状本体部の前後方向の一方の端を９０度屈曲させた第１係合部と、平板状本体部の前後方向の他方の端を該第１係合部と反対側で且つ鉛直方向に対して３０度屈曲させた第２係合部を有するものであることを特徴とする請求項５記載の商品展示台。
【請求項７】
該第１係合部を該傾斜溝に係合させ、該平板状本体部をパネル面に対して６０度傾斜する姿勢としたことを特徴とする請求項６記載の商品展示台。
【請求項８】
該第２係合部を該傾斜溝に係合させ、該平板状本体部をパネル面の直交方向に延出する姿勢としたことを特徴とする請求項６記載の商品展示台。
【請求項９】
該第２係合部を該水平溝に係合させ、該平板状本体部をパネル面に対して３０度傾斜する姿勢としたことを特徴とする請求項６記載の商品展示台。
【請求項１０】
請求項１～３のいずれか１項に記載の商品展示用パネルを、陳列面を有する基台の後方部に起立姿勢で取り付けたことを特徴とする商品展示台。
【発明の詳細な説明】
【技術分野】
【０００１】
本発明は、パソコン、デジタルカメラ、ポータブル音楽プレーヤー及び携帯電話などの小物家電商品の展示を好適に演出する商品展示用パネル及び商品展示台に関するものである。
【背景技術】
【０００２】
従来、パソコン、デジタルカメラ、ポータブル音楽プレーヤー及び携帯電話などの小物家電商品を展示する商品陳列台としては、水平陳列面を有する基台と、該基台の後方部から上方に起立するパネルを有し、該パネルには、陳列の補助部材である棚部材を着脱自在に装着すると共に、プラグ付き配線コードや盗難防止用のコードなどの配線が採れるようにしたものが知られている。
【０００３】
また、ＷＯ２００６/５９３９６号公報には、商品の陳列に必要な所定の表面積を有する平板状のボード本体と、商品の仕切り板又は商品の陳列面となる板状物を備え、取り付けられる前記板状物が天面に対して直立姿勢をとる垂直溝と、取り付けられる前記板状物が天面に対して傾斜姿勢をとる傾斜溝が、前記ボード本体の天面の全域又は一部に形成されることを特徴とする商品陳列用ボードが開示されている。この商品陳列用ボードは、垂直溝の中に傾斜溝を形成したものであり、陳列棚部材である２つの板状物を互いに異なる姿勢で設置でき、陳列の演出を高めることができる。
【先行技術文献】
【特許文献】
【０００４】
【特許文献１】ＷＯ２００６/５９３９６号公報
【発明の概要】
【発明が解決しようとする課題】
【０００５】
しかしながら、従来の小物家電商品を展示する商品陳列台は、起立パネルに棚板部材を設置する際、１種類の棚板部材で２種類の陳列姿勢しか採れなかった。また、前面小パネ

ルが回動自在に縦方向に多数設置される起立パネルにおいて、小物家電商品を展示する際、プラグ付き配線コードや盗難防止用のコードなどの配線をした後は、前面小パネルは開けることができるため、不用意に前面小パネルを開けてしまうと、裏側の乱雑な配線類が丸見えとなり、展示の意匠性を損ない、展示の演出を損なうものであった。また、ＷＯ２００６/５９３９６号公報の商品陳列用ボードは、一枚のボードに、鉛直溝と傾斜溝が形成されるものであり、多数の前面小パネルを備えるボードには適用できないものであった。

【０００６】

従って、本発明の目的は、パネルに棚板部材を設置する際、１種類の棚板部材で３種類の陳列姿勢が採れ、また、棚板部材を設置した後は、前面小パネルを開けることができず、展示の意匠性を損なうことのない商品展示用パネル及び商品展示台を提供することにある。

【課題を解決するための手段】

【０００７】

かかる実情において、本発明者等は鋭意検討を行った結果、後方枠体と該後方枠体に回動自在に設置される前面小パネルを備える商品展示用パネルにおいて、該前面小パネルが後方枠体に嵌められた状態において、該前面小パネルの上部後方位置に、パネル面の直交方向に延びる水平溝と該水平溝と挿入口を同じとする該水平溝と所定の角度で傾斜する傾斜溝を形成したものであれば、パネルに棚板部材を設置する際、１種類の棚板部材で３種類の陳列姿勢が採れ、また、棚板部材を設置した後は、前面小パネルを開けることができず、展示の意匠性を損なうことのないことを見出し、本発明を完成するに至った。

【０００８】

すなわち、本発明は、前面小パネルが嵌る支持部を有する後方枠体と、該後方枠体の該支持部と上端部が回動自在に嵌合して、該嵌合部を支点として下端側が下開きする横長の前面小パネルと、を有するものであって、該前面小パネルは、縦方向に複数個、隣接する同士が所定寸法離間して設置され、該前面小パネルが後方枠体に嵌められた状態において、該前面小パネルの上部後方位置に、パネル面の直交方向に延びる水平溝と該水平溝と挿入口を同じとする該水平溝と所定の角度で傾斜する傾斜溝を形成したことを特徴とする商品展示用パネルを提供するものである。

【０００９】

また、本発明は、前記商品展示用パネルを備える商品展示台を提供するものである。

【発明の効果】

【００１０】

本発明によれば、パネルに棚板部材を設置する際、１種類の棚板部材で３種類の陳列姿勢が採れ、また、棚板部材を設置した後は、前面小パネルを開けることができず、展示の意匠性を損なうことがない。

【図面の簡単な説明】

【００１１】

【図１】本発明の実施の形態における商品展示用パネルの斜視図である。

【図２】図１の商品展示用パネルの他の斜視図である。

【図３】（Ａ）は棚板部材を設置した商品展示用パネルの斜視図であり、（Ｂ）は棚板部材の斜視図である。

【図４】図２のＸ－Ｘ線に沿って見た断面図である。

【図５】図２のＹ－Ｙ線に沿って見た断面図であって、前面小パネルを外した状態を説明する図である。

【図６】前面小パネルの嵌合状態を説明する図である。

【図７】前面小パネルの嵌合状態を説明する他の図である。

【図８】前面小パネルの嵌合状態を説明する他の図である。

【図９】棚板部材が装着された商品展示台を説明する図である。

【図１０】商品展示用パネルを備える商品展示台の斜視図である。

【発明を実施するための形態】
【００１２】
次に、本発明の実施の形態における商品展示用パネルを図１～図８を参照して説明する。商品展示用パネル１０は、後方枠体２と、後方枠体２の支持部２２ａと上端部が回動自在に嵌合して、嵌合部１１３を支点として回動し下端側が下開きする横長の前面小パネル１と、を有する。商品展示用パネル１０は、前面小パネル１が縦方向に所定寸法（ｗ）離間して多数設置されたものであり、前面小パネル１を閉じた状態における正面視では、前面小パネル１と、隣接する２つの前面小パネル１間に位置する後方枠体２の横桟部材２１６と、前面小パネル１の直上に位置する水平溝３を見ることができ、裏側が見える隙間などは存在しない。なお、本明細書中、水平方向や縦方向は、商品展示用パネルの鉛直姿勢における位置を言う。
【００１３】
後方枠体２は、前面小パネル１を縦方向に複数個、隣接する同士が所定寸法（ｗ）離間して設置するパネル支持構造を有する。すなわち、後方枠体２は、前面小パネル１を支持するパネル支持構造単位２１が縦方向に、本例では５つ連続して形成されたものである。
【００１４】
パネル支持構造単位２１は、プラグ付き配線コードや盗難防止用のコードなどの配線を裏側から表側に通す窓部５と、前面小パネル１が回動自在に嵌る支持部２２ａと、棚板部材７が嵌る水平溝３と、棚板部材７が嵌る傾斜溝４を構成する傾斜溝形成部４１ａを備える。窓部５は、前面小パネル１が嵌る位置、すなわち、前面小パネル１の裏部にパネル面の直交方向に貫通して形成されたものである。窓部５は、具体的には、左右の縦桟部材６１１、６１２と、上下の横桟部材と、左右の縦桟部材６１１、６１２間を適宜のピッチで区画する小縦桟部材６１によって形成される。窓部５は、前面小パネル１を開けることで現れる。
【００１５】
後方枠体２において、前面小パネル１が回動自在に嵌る支持部２２ａは、窓部５の直上、前方に形成される。これにより、支持部２２ａに前面小パネル１を嵌め込めば、前面小パネル１が鉛直姿勢において窓部５を閉じることができ、開ければ、窓部５が表われ、プラグ付き配線コードや盗難防止用のコードなどの配線９を裏側から表側に通すことができる。支持部２２ａは本例では突部材であり、横桟部材から上方に起立した略板状の起立部２３と、起立部２３の両端から横方向に延びる円筒部材２２からなり、後方枠体２の左右方向に適宜のピッチで数箇所に形成されている。起立部２３の先端部の断面形状は、円筒部材２２の断面形状と同じである（図５～図８）。これにより、嵌合による当接を横方向に長く採ることができ、嵌合が安定する。なお、支持部２２ａと前面小パネル１の嵌合方法は、上下形態例に限定されず、前面小パネル１が回動自在に嵌る公知の嵌合方法でよく、例えば、支持部２２ａを凹部形状とし、前面小パネル１の係合部を突形状としてもよい。
【００１６】
棚板部材７が嵌る水平溝３は、前面小パネル１の上部後方位置、すなわち、前面小パネル１の直上でその後方位置の後方枠体２内に形成される。水平溝３は、前面が開口、上下水平壁と奥の縦壁からなる断面が略コ字形状であって、溝孔が水平方向に延びる溝底を備える溝であり、商品展示用パネル１０の左右方向に連続するものである。従って、商品展示用パネル１０を正面から見ると、水平溝３は、前面小パネル１の直上に表われる。このため、図９の最下の棚板部材７のように、棚板部材７の第２係合部７２を水平溝３に嵌め込むと、前面小パネル１の天面１７が第２係合部７２の下面と当接し、棚板部材７を後方枠体２の水平溝３と前面小パネル１の協働により支持することになる。
【００１７】
傾斜溝形成部４１ａは、後方枠体２内に形成されるものであり、棚板部材７が嵌る傾斜溝４を構成するコ字断面形状の２辺、すなわち、後方壁４１１と溝底４１２からなる（図５参照）。傾斜溝形成部４１ａは、この断面形状が商品展示用パネル１０の横方向に連続

する。なお、傾斜溝４を構成するコ字断面形状の他の１辺、すなわち、前方壁は、前面小パネル１が嵌合し窓部５を閉じた状態における前面小パネル１の上方後部の傾斜部分である。すなわち、傾斜溝４は、後方枠体２と窓部５を閉じた前面小パネル１の協働により形成されるものであり、傾斜溝形成部４１ａは、後方枠体２内における構成部分を言う。

【００１８】

後方枠体２の上部には、フック形状の上部係止部２１５が後方枠体２の左右方向に連続して形成されており、横桟部材などへの設置を可能としている（図５参照）。また、後方枠体２の裏面には、フック形状の後方係止部８が上下２つ形成されており、横桟部材などへの設置を可能としている。また、後方枠体２の窓部５を形成する下方の横桟部材は、後方枠体２の本体部よりやや前方に延出したパネル係り部６２を形成している（図２参照）。パネル係り部６２には、前面小パネル１の下方の突起１３が係止し、前面小パネル１の固定を容易にしている。また、パネル係り部６２には、左右方向に所定のピッチで適宜、切欠き部６３を形成しており、前面小パネル１が閉じた場合、プラグ付き配線コードや盗難防止用のコードなどの配線９が切欠き部６３を通すことができる。後方枠体２において、パネル係り部６２とパネル係り部６２の直下に位置する水平溝３間は、後方枠体２の前面部となるが、この前面部の高さは棚板部材７の水平溝３や傾斜溝４への挿入などのし易さにより、数ｃｍ～１０ｃｍの間で適宜決定される。

【００１９】

前面小パネル１は、縦方向に複数個、隣接する同士が所定寸法離間して設置されるが、全て同じ形状であるため、１つの前面小パネル１について説明する。前面小パネル１は、通常は、後方枠体２の窓部５を閉じて、商品展示用パネル１０の前面化粧板としての機能を奏すると共に、後方枠体２と協働して、傾斜溝４を形成する。また、棚板部材７を傾斜溝４に挿入設置することで、前面小パネル１が開かないようにロックする部材として機能する。また、前面小パネル１は、窓部５を開けることにより、プラグ付き配線コードや盗難防止用のコードなどの配線９が取り出せるようにしている。

【００２０】

前面小パネル１は、後方枠体２の支持部２２ａと上端部が回動自在に嵌合して、嵌合部１１３を支点として下端側が下開きする横長の裏面が実質的にくり抜かれた板状体である（図５及び図６）。前面小パネル１の嵌合部１１３は、本例では凹部状である。嵌合部１１３は、前面小パネル１の裏面上端から後方側へ斜め下方に垂下する突出部１５と、突出部１５の両端より若干外側の前面小パネル１の裏面に下方に延出する突起片１４とからなる。そして、突出部１５と突起片１４により、後方枠体２の支持部２２ａが嵌る凹部１６を形成している。このような嵌合部１１３は、左右方向に適宜のピッチで数箇所に形成されている（図７及び図８参照）。なお、後方枠体２と前面小パネル１の嵌合方法は、上下形態例に限定されず、前面小パネル１が回動自在に嵌る公知の嵌合方法でよく、例えば、後方枠体２を凹部形状とし、前面小パネル１の係合部を突部形状としてもよい。

【００２１】

前面小パネル１の突出部１５が後方枠体２の起立部２３の先端部に後方側から嵌合し、前面小パネル１の突起片１４が後方枠体２の円筒部材２２の前方側から嵌合する。これにより、前面小パネル１の突出部１５と突起片１４である２つの爪が、後方枠体２の先端部を挟持するように嵌合し、前面小パネル１は後方枠体２に対して、回動自在となる。

【００２２】

前面小パネル１の上部形状は、上面部１７と上面部１７と連続する後方側へ下り傾斜の傾斜部１１を有する。上面部１７は前面小パネル１が窓部５を閉じた状態において、後方枠体２の水平溝３の下方壁３３と面一となり、また、傾斜部１１は前面小パネル１が窓部５を閉じた状態において、傾斜溝４を構成する２つの上下壁の中の下方壁となる。

【００２３】

また、前面小パネル１は、裏面の下方部からパネル板の鉛直方向（窓部５を閉じた状態における水平方向）に延出する突出片１３を有する。前面小パネル１の突出片１３は、後方枠体２の窓部５の下方の横桟部材６２と弾発力によりややきつく当接し、前面小パネル

１の固定を安定なものとしている。また、前面小パネル１の上部前方には、前方下り傾斜の傾斜面１８が形成されている。これにより、棚板部材７の前方傾斜姿勢の設置の際、障害となることがない（図４参照）。

【００２４】

前面小パネル１が後方枠体２に嵌められた状態において、前面小パネル１の上部後方位置に、パネル面の直交方向に延びる水平溝３と水平溝３と挿入口３１を同じとする傾斜溝４が形成される。すなわち、水平溝３は、前面小パネル１が後方枠体２に嵌められた状態において、前面小パネル１の天面１７と水平溝３の下方壁３３と面一であるため、正面視において前面小パネル１の直上に表われる。また、傾斜溝４は、前面小パネル１の上部後方（裏側）位置の後方枠体２内に形成されるため、正面視において前面小パネル１に隠れて見えない。なお、傾斜溝４は、水平溝３に対して６０度後方傾斜したものである（図４参照）。また、前面小パネル１の上方後部の傾斜部１１は、パネル面１２と３０度で後方下りに傾斜したものであり、前面小パネル１が閉じた状態において、傾斜溝４を形成する互いに対峙する２つの壁の中の前方壁となる。

【００２５】

次に、本発明の実施の形態における商品展示台２０を図３及び図９を参照して説明する。すなわち、商品展示台２０は、商品展示用パネル１０と棚板部材７を備えるものである。棚板部材７は、水平溝３又は傾斜溝４に係合して展示商品を載置する機能を有するものであり、平板状本体部７１の前後方向の一方の端を９０度屈曲させた第１係合部７３と、平板状本体部７１の前後方向の他方の端を第１係合部７３と反対側で且つ鉛直方向に対して３０度屈曲させた第２係合部７２を有する。商品展示台２０は通常、基台２０ａに起立状に設置される（図１０参照）か、壁面に掛けて設置される（不図示）が、これに限定されず、床面に直接置いてもよい。

【００２６】

商品展示台２０において、棚板部材７の第１係合部７３を傾斜溝４に係合させ、平板状本体部７１をパネル面に対して６０度傾斜する姿勢として使用することができる（図９の中央の棚板部材）。棚板部材７の前方下り傾斜面７１ｂに設置される商品は、前方下り傾斜姿勢を採る。また、前方の第１係合部７２が転落防止板として機能するため安定した設置が可能となる。また、棚板部材７が傾斜溝４に嵌合した後、前面小パネル１は、棚板部材７が開く際の障害となり、前面小パネル１を開けることができない。これにより、棚板部材７設置後の使用状態において、前面小パネル１は不用意に開けることができないため、裏側の乱雑な風景がパネルを通して表われることがない。なお、電気商品と配線９等の接続は、棚板部材７を設置する前に行っておく。すなわち、前面小パネル１を開けることで、裏側から配線９を窓部５を通して表側に取り出し、後方枠体２の切欠き部６３に通しておく。その後、前面小パネル１を閉じればよい。

【００２７】

商品展示台２０において、棚板部材７の第２係合部７２を傾斜溝４に係合させ、平板状本体部７１をパネル面の直交方向に延出する姿勢として使用することができる（図９の上方の棚板部材）。棚板部材７の水平面に設置される商品は、水平陳列姿勢を採る。また、前方の第２係合部７３が転落防止板として機能するため安定した設置が可能となる。また、棚板部材７が傾斜溝４に嵌合した後、前面小パネル１は、棚板部材７が開く際の障害となり、前面小パネル１を開けることができない。これにより、棚板部材７設置後の使用状態において、前面小パネル１は不用意に開けることができないため、裏側の乱雑な風景がパネルを通して表われることがない。

【００２８】

商品展示台２０において、棚板部材７の第２係合部７２を水平溝３に係合させ、平板状本体部７１をパネル面に対して３０度傾斜する姿勢として使用することができる（図９の下方の棚板部材）。棚板部材７の急な傾斜面に設置される商品は、前方下り傾斜の陳列姿勢を採る。また、前方の第２係合部７３が載置板として機能し、平板状本体部７１ｃが背もたれ板として機能するため趣のある設置が可能となる。また、棚板部材７が水平溝３に

嵌合した後、前面小パネル１は、棚板部材７が開く際の障害となり、前面小パネル１を開けることができない。これにより、棚板部材７設置後の使用状態において、前面小パネル１は不用意に開けることができないため、裏側の乱雑な風景がパネルを通して表われることがない。

【００２９】

図１０に示すように、商品展示台３０は、商品展示用パネル１０を、陳列面２１１を有する基台２０ａの後方部２１２に起立姿勢で取り付けたものである。これにより、基台２０ａの水平陳列面２１１と商品展示用パネル１０の双方に、商品の展示又は陳列が可能となる。商品展示用パネル１０の基台２０ａへの取り付けは、基台２０ａの後方に形成された取り付け溝（不図示）に商品展示用パネル１０を押し込む方法などで行なうことができる。また、商品展示用パネル１０は、基台２０ａに対して前方傾斜姿勢で設置することができる。その場合、商品展示用パネル１０を後方で支持する支持体を取り付け溝に設置し、商品展示用パネル１０の前方端を、基台２０ａの前方係止部２１３に係止すればよい。

【００３０】

本発明の商品展示用パネル及び商品展示台は、上記実施の形態例に限定されず、種々の変形例を採ることができる。

【産業上の利用可能性】

【００３１】

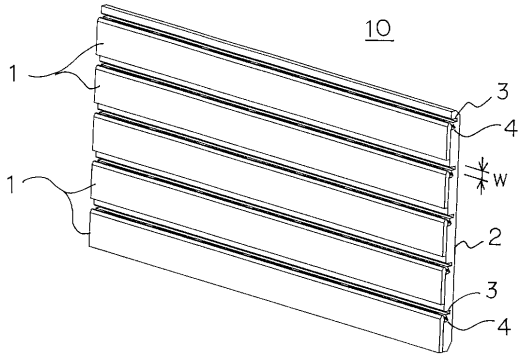
本発明の商品展示用パネル及び商品展示台を使用すれば、１種類の棚板部材で３種類の商品展示形態を演出できる。また、棚板部材の使用時は、前面小パネルの開を制限したため、裏側にあるプラグ付き配線コードや盗難防止用のコードなどの配線９を隠すことができ、質の高い演出が可能となる。

【符号の説明】

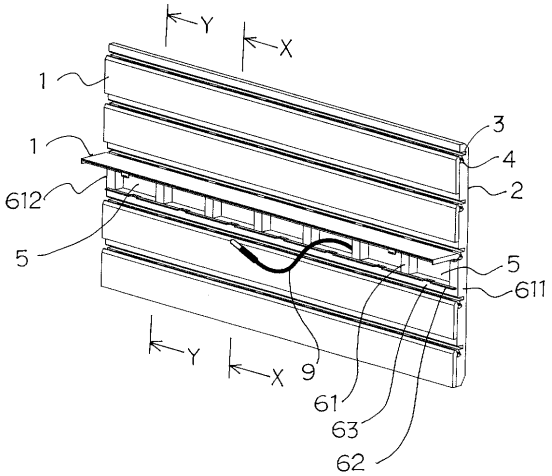
【００３２】

１　前面小パネル
２　後方枠体
３　水平溝
４　傾斜溝
５　窓部
７　棚板部材
１０　商品展示用パネル
２０、３０　商品展示台
２１　パネル支持構造単位
２２　支持部

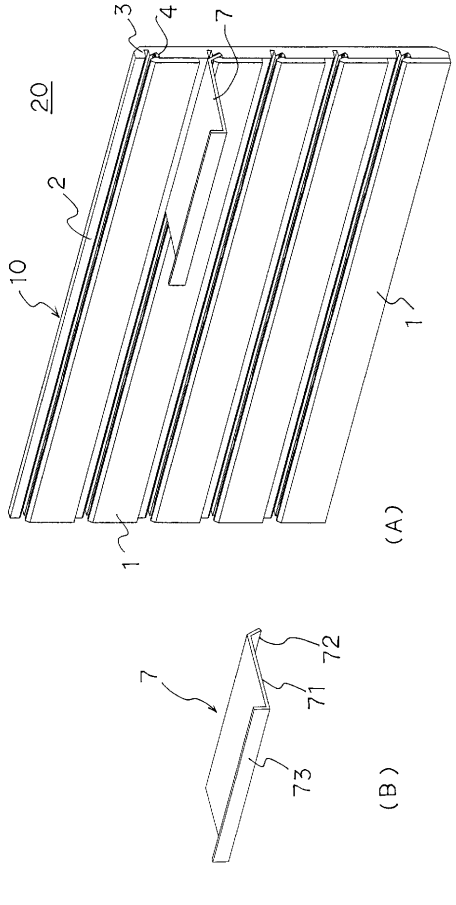
【図１】


10
1
1
3
4
W
2
3
4

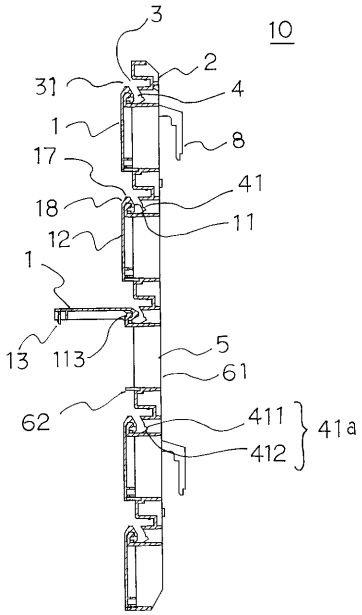
【図２】


Y
X
1
1
612
5
3
4
2
5
611
Y
X
9
61
63
62

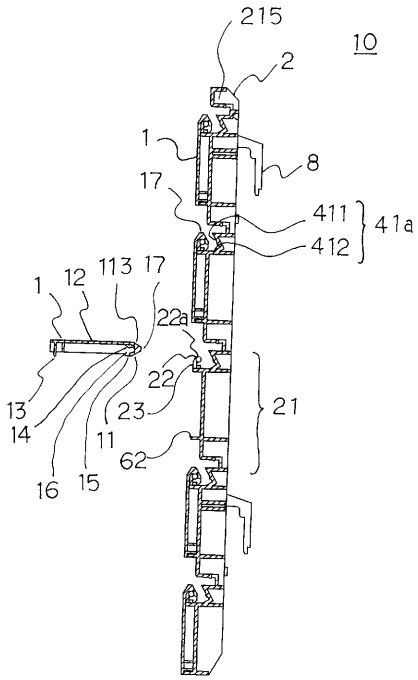
【図３】


3
4
7
20
2
10
1
1
(A)
7
72
71
73
(B)

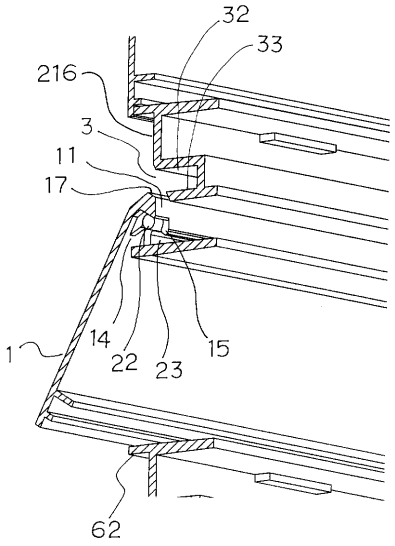
【図４】


3
10
2
31
4
1
8
17
41
18
11
12
1
13
113
5
61
62
411
412
41a

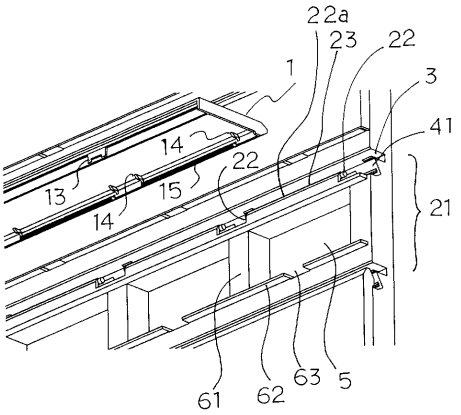
【図５】


215
10
2
1
8
17
411
412
41a
1
12
113
17
22a
22
23
21
13
14
11
62
16
15

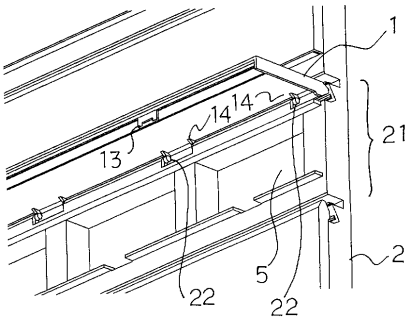
【図６】


32
33
216
3
11
17
1
14
22
23
15
62

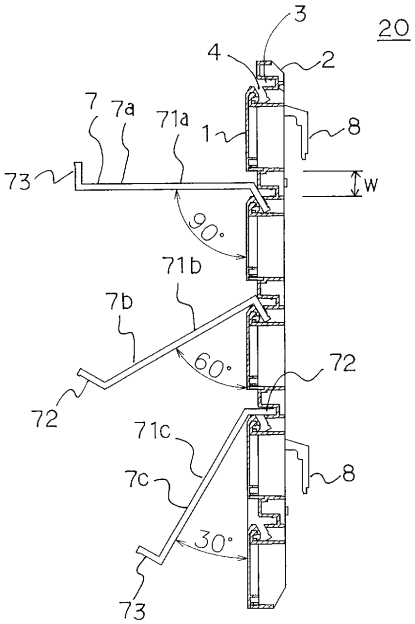
【図７】


22a
23
22
1
3
41
14
13
15
22
14
21
61
62
63
5

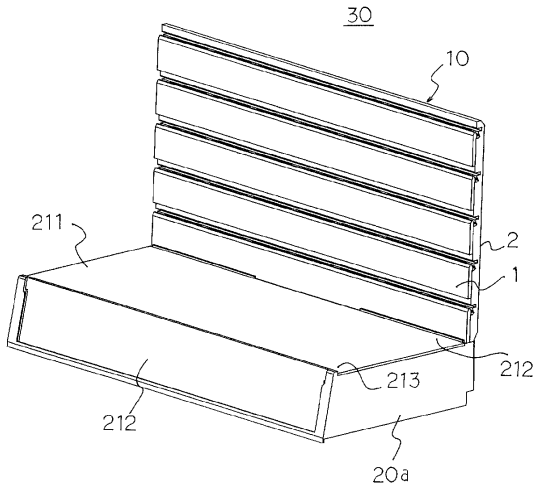
【図８】


1
14
14
13
21
5
2
22
22

【図９】


3
20
4
2
7
7a
71a
1
8
73
W
90°
71b
7b
60°
72
72
71c
7c
8
30°
73

【図１０】



フロントページの続き

審査官　根本　徳子

(56)参考文献　登録実用新案第３１２６３９７（ＪＰ，Ｕ）
特開２００６－１７４９８３（ＪＰ，Ａ）
登録実用新案第３１４９６０７（ＪＰ，Ｕ）
実開昭５５－０５７３７１（ＪＰ，Ｕ）

(58)調査した分野(Int.Cl.，ＤＢ名)
Ａ４７Ｆ　　５／００－８／０２